

復活節第二主日

2016.4.3

ヨハネ 20・19-31

先週の日曜日、わたしたちは今年も復活祭を迎えて、主の復活を祝いました。わたしたちが毎年この季節に復活祭を祝うのは、わたしたちの日々がどのようなものであろうとも、その日々を生きているわたしたちのありようがどうであらうとも、その日々を生きるわたしたちがカトリックの信者だからです。カトリック信者であるわたしたちは、わたしたちの教会が祝う復活祭のミサに参加することによって、わたしたちが信じる主イエス・キリストの復活とともに祝ったのです。

わたしたちが生きている今の日本の社会の状況の中で、わたしたちがカトリック信者であり続け、今年も教会の復活祭を祝うミサに参加して、こうしてともに復活祭を祝うことが出来たということは、わたしたちが思っている以上に驚くべきことです。わたしたちがカトリック信者にならなかったなら、復活祭を祝うということを知らないままで過ごしていたことでしょう。教会において祝われる復活祭は、わたしたちが生きるそれぞれの人生の日々にとって無縁なものであり続けたことでしょう。わたしたちは復活祭のミサに参加することによって、大げさに言えば、自分たちがイエス・キリストの復活を祝いあうカトリック信者であることを、自分たち自身をも含めて、今の日本の社会の中に生きる人々に対して証したのです。

わたしたちは、わたしたちが生きる日々の生活の中で、自分たちの発案によって復活祭を祝ったのではありません。わたしたちはカトリック教会と出会って、教会に伝えられてきたイエス・キリストの復活を告げる信仰を受け入れることによって、こうして今年も復活祭を祝いあったのです。このようなことを改めて反省することは、わたしたちのカトリック信者としての信仰がどのようにしてわたしたちにもたらされたかということを反省することでもあります。そしてそれは、わたしたちの受け入れた教会の信仰がわたしたちにどのようなことをもたらしたかということを改めて反省することにも繋がるはずです。

わたしたちが今年も祝った復活祭は、言うまでもなく、福音書に語られているイエス・キリストの復活を祝う教会に伝えられてきたキリスト教の信仰の祭りです。福音書に語られていること自体は、十字架に架けられて死んで、墓に葬られたイエスが、三日目に復活したということです。今日わたしたちが聴いた福音は、復活されたイエスが弟子たちに現れたことを伝えています。福音書を素直に読むなら、イエスの復活という、今のわたしたちにはにわかには信じ

がたい、驚くべき出来事は、イエスの十字架がそうであったように、二千年前のユダヤに生きた、イエスとその弟子たちの上に起こった、この世界の中の歴史的出来事として語られていることが分かります。福音書に語られているイエスの復活は、おとぎ話のようなものでも、神話でもなく、わたしたちが生きている歴史の現実の中で起こった出来事として語られているのです。わたしたちが受け入れた教会の信仰は、イエスの復活という出来事をそのように受け止めています。

事実、わたしたちがそこでカトリック信者となったわたしたちの教会は、福音書に語られているイエスの復活という、この世界の歴史の中に起こった出来事を、その同じ歴史の流れの中で今のこの時代を生きる自分たちに関わる空前絶後の出来事として、復活祭を祝ってきたのです。

わたしたちはカトリック教会と出会って、教会が宣べ伝えてきたこのような信仰を受け入れてカトリック信者となったのです。カトリック信者となったわたしたちは、自分が受け入れた教会の信仰を生きるカトリック信者として、福音書に語られているイエスの復活という出来事を、自分たちの生きる日々が決定的な意味を持つ出来事として、今年も、イエスの復活を記念する復活祭の祭りを祝いあつたのです。

福音書は、十字架の刑に処せられて死に、墓に葬られたイエスが復活したことを語っています。しかも、そのことは、わたしたちが生きるこの世界の歴史の中に起こった出来事として語っているのです。わたしが生きるこの世界の歴史の中では決して起こりえないことが、イエスの復活において起こったことを、福音書はわたしたちに告げているのです。わたしたちが受け入れた教会の信仰はこのことに基づいています。わたしたちがこの信仰を受け入れることが出来た時、この歴史の中を生きる、わたしたちの人生は一変したはずです。何故なら、イエスの復活という出来事によって、わたしたちが生きるこの世界の歴史の中で、信じがたい未曾有の出来事が起こったことを知ったからです。十字架の刑に処せられて死に、墓に葬られたイエスが復活したことを告げる、教会の信仰を受け入れることが出来た時、わたしたちは福音書の中に伝えられているイエスの全てを、その通りに受け入れることが出来るのです。イエスが十字架の死に終わるその生涯をかけて、わたしたちに示した神が、本当におられることを知ったのです。イエスがその生涯を通してわたしたちに示した神は、イエスが示したとおりの神であることを知ったのです。わたしたちが生きる人生の日々と、わたしたちがその中に生きるこの世界の歴史は、イエスを死者の中から復活させられた、イエスが父とお呼びした神の、わたしたちには計りがたい、絶大な計らいのもとにあることを知ったのです。神はイエスを死者の中から復

活させることによって、このわたしたちが生きる世界の歴史の中にご自分を現されたのです。わたしたちがカトリック信者として信じている神はこのような神です。わたしたちは、福音書が告げるイエスの復活を、福音書が告げるとおりの出来事として信じる教会の信仰を受け入れることによって、イエスの復活というありうべからず出来事をこの世界にもたらされた神を、わたしたちの中に迎え入れたのです。わたしたちの日々は、その神の計らいのもとにあることを、洗礼を受けてカトリック信者となることによって受け入れたのです。

わたしたちは今年も、イエス・キリストの復活を祝う教会の復活祭に参加することによって、このような神を信じる信仰に招き入れられたことを喜びあったのです。復活祭を祝いあうことによって、わたしたちは、わたしたちが信じている信仰がどのようなものであるかを確認しあったのです。

わたしたちのカトリック信者としての信仰は、十字架の死をも越えて復活されたイエス・キリストを信じる信仰です。そのイエスを死者の中から復活させられた、ありうべからざることを可能にする全能の神を信じる信仰です。そして、そのわたしたちの信仰は、わたしたちがその中に生きる世界の歴史の中で起こった出来事として信じる信仰なのです。

わたしたちがカトリック信者としてこの信仰を生きることが出来る時、わたしたちは、わたしたちが生きるこの地上の日々にどのようなことが起ころうとも、そしてそれがわたしたちの目にどのように映ろうとも、その全てが、わたしたちの主イエス・キリストを復活させられた神の絶大ないつくしみの計らいのもとにあることを受け入れることが出来るのです。そしてこれこそが、わたしたちのカトリック信者としての信仰そのものなのです。

今日の福音の結びには、トマスにご自分を現された復活の主イエス・キリストのみことばが響いています。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は幸いである。」わたしたちは、復活の主イエス・キリストの現われを見た、トマスを含む弟子たちによって告げ知らされた、イエスの復活の出来事を信じた人々の二千年に及ぶ教会の信仰の中で、このイエスのみことばを、自分たちに向けられた、わたしたちが信じるわたしたちの主イエス・キリストのみことばとして受け止めているのです。今日の福音の、このイエスの絶対的な保証のみことばが、わたしたちが生きるわたしたちの生涯の全ての日々に、深く、深く、根を下ろしてゆくことを、主の復活の喜びの中にある今日の復活節第二主日のミサの中で祈り求めて行きたいと思えます。

カトリック高円寺教会
主任司祭 吉池好高